

2023年『資本論』深掘り講座(第8回)ニュース

—第3巻の真価を探る—

前回の講義内容

■ワンポイント

「同一労働同一賃金」の考え方は、労働者と経営者とでは全く違った捉え方をしています。労働者側は非正規労働者の待遇改善を目標としますが、資本家にとっては、正規労働者の労働条件を低下させる理論として用いられているのです。ことにあろうか JP 労組(正規組合)は、有給休暇削減を提案し非正規労組と同一にしようとしているのです。賃金とは、「労働力商品価値」の貨幣表現であり、「労働」の対価ではないことを再確認しましょう。(第1巻第6篇「賃金論」)

■商業資本の意義

いよいよ、第4篇「商品資本と貨幣資本の商業(商人)資本への転化」に入っていきます。マルクスは、商業資本を産業資本循環のうちの流通段階の独立化として位置づけています。産業資本は、(生産資本) $P \cdots$ (商品資本) $W' - G'$ ・ (貨幣資本) $G - W \cdots P$ と変態をとげながら循環を繰り返します。そのうち販売業務と購買業務が専門特化して資本として独立化していきます。これが商品取引資本と貨幣取引資本という二つの形態をとった商業(商人)資本の本質です。純粋な流通費は価値も剰余価値も生まない「生産の空費」ではありますが、流通時間の短縮迅速化、コストの縮小は間接的には生産資本を活性化させ剰余価値の増産に貢献することになる。商業利潤の本質は売買差額による譲渡利潤ではありません。平均利潤の均等化に貢献し総剰余価値から商業資本の割合によって利潤を受け取るのです。

本日の学習 第4篇 商業利潤論(2)

時間割

- 13:00~14:00 講義Ⅰ(60分)
- 14:10~15:10 講義Ⅱ(60分)
- 15:20~16:20 講義Ⅲ(60分)
- 16:30~16:55 質疑応答(25分)
- 16:55~17:00 片付け終了

終了後の質問感想についてはメールでお願いします。 mitioT@outlook.jp

次回

- 第9回講座 9月3日(日) 13:00~17:00
- エデュカス東京 5F 会議室 (JR市ヶ谷駅 地下鉄有楽町線麴町駅)
- 「第5篇 利子論(1)」

ご案内

「Daskapital を読む会」

- 8月26日(土) 13:00~17:00
- 東京八重洲地下街 八重洲倶楽部: 第7会議室
- 第1巻25章「近代的植民理論」
- 講師 宮川 彰先生

『資本論』第一巻講座

- 本講座 9月17日(日) 開講 13:00~17:00 ■エデュカス東京
- 講師 村上 裕先生 ■内容: 序・第1章 第1・2節

以上